

7 学校研究

1 研究主題

主体的に考え、学び合う子どもの育成

2 主題について

本校は、学校教育目標「勉強大好きかしこい子ども」の具現化を図るため、「主体的に考え、学び合う子どもの育成」というテーマで、教科を算数に絞り研究を進めてきて3年目になる。昨年度は町研修所の委嘱を受け「課題を解決するための手立ての工夫」「考えを深めるための交流の工夫」の2つの視点を掲げ、授業実践を発表することができた。

昨年度までの研究をしたことで、児童に次のような姿が見られた。

○必要感のある課題設定をしたことで、意欲をもって学習に取り組む姿

○見通しのもたせ方を工夫したことで、自力解決で主体的に考えようとする姿

○自分の考えを表現する工夫をしたことで、図、式、言葉で表現しようとする姿

○交流のさせ方を工夫したことで、図やグラフを指さす等してわかりやすく説明しようとする姿

また、指導する側にとっても、ねらいをもって振り返りをさせたことで、児童の理解度を把握し次の授業づくりに生かすことができた。

一方、研究を進める中で次のような課題も見られた。

○レディネスがそろわないと見通しの時間が延び、習熟の時間が確保できない。

○交流を通して習得させたいめあてまで到達できない。

そこでこれらの課題を克服するために、さらにより具体的な手立てを考えながら、主体的に学習に取り組む、友達とかかわり合う中で考えを深めていくことのできる子どもを育成したいと考える。

① 学びの土台をそろえ、児童の実態に応じた高まりを生む課題設定をする

→児童のつまずきや困り感を予想 見取りと達成状況を把握し、基礎・基本の確実な定着

② 単元全体を見通した授業づくり

→指導と評価の一体化を意識していく

③ 一人一人の実態を把握し、生徒指導の三機能を生かした適切な支援

→「温かな人間関係づくりの深化」をめざす。

の3つに取り組むことにした。

【研究におけることばの定義】

○「主体的に考え」とは・・・単元・題材と出会い、問いや気づきを持ち、見通しを持って課題に取り組もうとする

直面している問題を自分事として捉え、自力解決する
学ぶことのよさを実感し、次への意欲につなげていく

○「学び合う」とは・・・何をねらった学び合いかを自覚し、自力で解決できなかったことを聞いて解決したり、相手の考えを理解しそれを受けて返したりしながら、互いの共通点や相違点を話し合ったりする

○「基礎・基本」とは・・・基礎的な知識の習得にとどまらず、社会において生きていくために求められる思考能力・コミュニケーション能力

3 めざす子ども像

① 主体的に考え、進んで表現しようとする子ども

- ・見通し（結果と方法）を持って課題に取り組み、自力解決する過程で、数学的用語・記号を用いたり、具体物を操作したり、図や式にかいたりして自分の考えを表現する

② かかわりを通して、自分の考えを深めようとする子ども

- ・数学的用語・記号を用いて簡潔・明瞭・的確にわかりやすく説明する
- ・互いのよさを見つけて伝え合ったり、いろいろな考えを比較し、共通点や相違点を話し合ったりする
- ・かかわりの中で、答えを導き出したり、考えを修正したり、よりよい考えに気づいたりする

4 研究の仮説・視点

(1) 課題を解決するための手立てを工夫すれば、主体的に考えを表現しようとする子どもを育成することができるのではないか。(個の学び)

○学びの土台をそえ、児童の実態に応じた必要感のある課題設定の工夫

- ・指導と評価の一体化を意識した単元を見通した授業づくり
- ・レディネステスト等を活用した児童の実態把握
- ・前時までの子どもの振り返りを活用し、本時の学習課題を導き出す
- ・子ども達の学習意欲を喚起したり、問いを持ったりするような問題（資料）を提示

○見通しの持たせ方の工夫

- ・児童のつまづきや困り感を予想し、児童が考えるための有効な手がかりや効果的な発問・指示の準備
- ・見通しの持てない子どもへの支援

○自分の考えを表現する方法の工夫 自己決定

- ・有効な数学的活動の吟味（式、図、ことばで表現）
- ・考えを表出できない児童への手立て（音声や記述など）

(2) 考えを深めるための交流を工夫すれば、かかわりを通して、自分の考えを深めようとする子どもを育成することができるのではないか。(集団の学び)

○交流のねらいの明確化・焦点化 共感的人間関係

- ・交流のねらいの明確化
(この交流を通して児童がどんな姿でどのようになれば良いのかまで考える。
気づかせたい「共通点」や「相違点」・「疑問」や「間違いの検討」「修正」「よりよい考え」「考えのよさ」等)
- ・児童に使わせたい言葉の吟味、キーワード
- ・思考を促す発問の工夫

○交流を生かし、確かなものにする場の設定 自己存在感

- ・本時の課題に対して、児童の言葉を使った「まとめ」
- ・評価の観点にあった適用問題の吟味
- ・学びの変容がわかる「ふり返り」と次時の学習につなげる「ふり返り」（学びの連続性）

5 研究方法

- ・授業研究を中核にし、研究についての共通理解を図りながら進める。
- ・積み上げを図るために、学年1回算数の授業研究を行う。
- ・参考資料や参考文献を紹介し合ったり、先進校の研修に積極的に参加したりする。
- ・事前研は、「下学年部会」と「上学年部会」、「特別支援部会」に分かれて行う。
事後研は、全体でワークショップ型の話し合いを持ち、共有化を図る。

- ・授業研究時には、授業の全体記録、及び抽出児の学習活動の様子や思考の流れの記録を残し、事後研究会での話し合いに生かす。
- ・研究の共有と積み上げを図るために、研究主任が「成果と課題」をまとめ、研究日より全員に配付し、研究の共有を図る。

6 研究計画

(1) 研究の組織



◎は各部会の部長

(2) 提案授業の日程

月 日		内 容
4月 8日 (金)	研究推進委員会	研究計画 (研究主題、内容、組織、計画等) の検討
4月 20日 (水)	全体会・部会研	研究計画提案、役割分担
5月 18日 (水)	事前研①下上	2年1組 安達典道教諭
6月 1日 (水)	授業研①	4年2組 秋場教子教諭
6月 8日 (水)	事前研②下上	3年1組 猪口唯貴教諭
6月 22日 (水)	授業研②	6年2組 斎藤真美教諭
6月 29日 (水)	事前研③特	なかよし1組 戸村さゆり講師
7月 13日 (水)	授業研③	
7月 6日 (水)	部会研	1学期の反省と2学期に向けて
11月 9日 (水)	事前研⑤下上	1年1組 寒河江亜美教諭
11月 25日 (金)	授業研⑤	6年1組 土屋 学教諭
12月 14日 (水)	部会研	研究の成果と課題、今年度の反省と来年度に向けて
1月 11日 (水)	職員会議	来年度に向けて

8 その他

- (1) 指導案の形式は、本時案を含めて全体で4ページにまとめる。
- (2) 年度初めに、研究用ファイルを先生方に配布し、毎回の指導案と「成果と課題」を綴じ込んでいき、それを「研究紀要」とする。(改めて紀要や収録を作成したり印刷したりしない。) 指導案及び成果と課題は、毎回プラス5部印刷し、新しく赴任される先生方用及び保存用とする。

荒砥小学校がめざす算数科授業のイメージ

	めざす子どもの姿	教師の働きかけ	思考を促す発問
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いや気づき 「あれっ」「なんで」 ・ 自分事として捉える 「やってみたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの子どものふり返りを活用 ・ 単元・題材との出会わせ方の工夫 ・ 子どもの問いや気づきを引き出す ・ 絵、図による視覚化(イメージ化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前の学習と違う所はどこですか。
見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ めざすゴールをイメージする 「こうやったら解けるかな」 「今まで学習したことが使えそうだ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の問いを生かしためあての選定 ・ 見通しを持ち、めざすゴール(評価規準)をイメージさせる ・ 既習の知識を活用する場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな方法でできそうですか。 ○ 何をもとにして考えればいいでしょうか。 ○ わかっていることを使ってみましょう。
自力解決	<p>自己決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的活動(図・式・表・絵・具体的操作など) ・ 1つ出来たら別の方法 「もっと良い方法や他の方法はないかな」 ・ 発表準備 「自分の考えを友達にわかりやすく説明するには、どんな順序でどのように説明すればよいかな」 ・ ミニティーチャー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で課題に向き合い考える時間の設定 ・ 考えが進まない子どもへの手立て ・ 1つができたなら、別の方法で考えさせる。 ・ <u>子どもを見取り学び合いにつなげる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や図に表せないかな。 ○ 式に表せないかな。 ○ ここまではいいよ。ここからはどう考えたの。 ○ 自分の考えをみんなに説明できるように書いてみよう。 ○ 他のやり方はないか考えてみよう。
学び合い・価値の共有化	<p>共感的人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えの根拠を示して発表する。 ・ わからない時は、<u>積極的に聞く</u> 「～はどういうことですか」 「どうしてそう考えたの」 ・ 友達の考えと比べて聞き、<u>違いや共通点、よさに気づき、伝える</u> 「～さんの考えを聞いて・・・とわかりました」 「～さんの考えがよいと思います。わけは」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを表現する機会を保障する ・ <u>何をねらった学び合いか目的を明確にする</u>(数学的なよさに気づかせるなど) ・ 学びの目的に合った場の設定や工夫 ・ 深い学びにつながる発問の工夫 ・ 多様な考えをつなげたり関連づけたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達同士の考えを比べてみましょう。似ている所はないですか。 ○ もっとわかりやすく表せないかな。 ○ いつでも使えるやり方はどれですか。
まとめ・習熟	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてについて自分の言葉でまとめる ・ よさを生かして、問題を解く ・ 習熟・応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてと正対してまとめさせる ・ よさを使って、練習問題を解かせる ・ 定着・状況の的確な把握と必要に応じた手立ての工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ わかりやすい方法で解いてみましょう。
振り返り	<p>自己存在感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの過程を振り返り、新たな問いを見いだす ・ 思考の変容 「考えが変わった」 「改めて強く思った」 「見方が広がった」など ・ 自分の成長 「できるようになった」 「友達にわかってもらえた」 「新たに気付いた」など ・ 学ぶことのよさ ・ 次時への意欲 「この次はこんな問題をやってみよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの過程を振り返り、新たな問いを持たせる ・ 思考の変容を自覚させる ・ <u>自分の成長を感じさせる</u> ・ 学びのよさを自覚させる 	

